

資料から読み取ったことを基に、自分の考えを表現できる児童の育成

— 根拠を明確にして伝えるための社会科ノート指導の工夫を通して —



児童の実態

- 根拠を明確にした説明が苦手
- 読み取った情報から社会的事象の特色を考えたり、人々の工夫や努力の意義に目を向けたりすることが難しい。



教師の願い

- 資料から読み取った事実から、人々の工夫や努力のよさや意義を考えられるようになってほしい。
- 自分の考えを、根拠を示しながら伝えることができるようになってほしい。

特別研修員 社会 軽部幸一（小学校教諭）

手立て1

資料から読み取ったことを基に、人々の工夫や努力について考える活動

（単元 自動車をつくる工業）

どのような工夫をしているのか資料から読み取る

読み取ったことを基に、自動車づくりで工夫していることを短い文章で考えました。



人にやさしい自動車づくりのための工夫

- ・エアバッグ
- ・しょうとつ安全ボディ
- ・自動ブレーキ
- ・ナイトビュー
- ・乗り降りがしやすく回転するイス
- ・足の不自由な人でも運転できる装置

環境にやさしい自動車づくりのための工夫

- ・ハイブリッドカー
- ・電気自動車
- ・プラグインハイブリッドカー
- ・ソーラーカー
- ・燃料電池車
- ・ねじが少なく外しやすい部品

人にやさしい車づくりのための工夫

- 1 安全に乗れるようにする
- 2 便利に乗れるようにする

環境にやさしい自動車づくり
環境 → 環境をこわしたりしない。
資源 → 資源をむだ使いしない。
リサイクルできる車。

手立て2

根拠を明確にして伝えるためのノート指導と交流活動の設定

< 手立て1の活動を基にした児童のノート（例） >

考えの基となる資料番号などを記述する

ここを用いて伝え合う

根拠を示して伝えられました。

左ページには課題と事実を記入させる

右ページには考えとまとめを記入させる



わたしが人にやさしい車づくりで工夫していると思ったのは「安全に乗れる」です。資料集82ページ2の②の資料で、事故が起こって衝突しても乗っている人が守られるように工夫してあるので、そう思いました。

成果

- ・人々の工夫や努力が「何のためのものか」「何を大切にしているか」について考える活動を設定したことは、資料の単なる読み取りに終わらず、人々の工夫や努力の意義に目を向けさせるために有効だった。
- ・ほとんどの児童が、自分の考えを友達に伝える時に、なぜそう思ったかの根拠となる資料を示しながら伝えることができるようになった。

課題

- ・ノートに記述した資料の番号を伝えるのではなく、教科書や資料集の写真などを直接見せながら発表する児童もいた。ノートを活用して発表する型をはっきり示し、徹底する必要があった。